学校空調整備計画 予算化の経緯は？

海友ク　髙橋　進

問：空調設備の整備について、19、20年度で市内全中学校に、20年度から3カ年で市内全小学校に整備するとのことですが、数年に渡る継続事業として計画性に乏しく疑問を抱いています。現時点でこのような計画をされた経緯と、19年度に完了するとしている全小・中学校の耐震化との計画的整合性について伺います。

また、計画している設備が、学校の外観・景観を損なうことにならないか懸念しています。計画的に事業を進めていただきたいものですが、ややもすると場当たり的な対応とも思えます。実施にあたり十分な検討をされているのか伺います。

答（教育長）：温暖化により、猛暑の日は年々増加しています。学校によっては、すでに空調設備を整備しており、学校間の格差を無くすことも必要です。また、最優先事業の耐震補強工事が完了予定のため、今後は学校施設の環境面の改善が、急務と考えます。

答（教育総務部長）：設備については、環境負荷に配慮した方式を採用し、空調機、配管等は景観に配慮し、外壁と同系色を検討しています。

空調設置で勉強もしやすく

どうなる？温故館の保存 方向性いつになったら!?

市政ク　飯田英榮

問：温故館が休館され7カ月が経ちました。その間、18年8月に、市長から温故館耐震診断の結果の報告があり、その後の方向性は、12月を目途に決定したいとのことでした。展示物は1月17日から文化会館に移動されましたが、いまだに、今後の方向性が示されておらず、新年度予算にも、温故館に関する整備費は計上されていません。市長の所見を伺います。

答（市長）：10月に温故館のあり方懇談会を開催し意見を伺ったところ、多額の費用をかけても長期利用できないのであれば壊した方がよいという意見と保存すべきという意見の2つに別れました。大変難しい問題であり慎重に判断しなければならないと考えます。そしてこの問題は、郷土資料館をどうすべきか、旧村役場の建物を文化財として保存するかという2つの問題として考えるべきと考えます。

市の歴史・文化財を大切にしたい思いはみな同じです。これら文化財を大切に保存し展示する施設としては、現状では十分ではないと思っています。そこで第4次総合計画の中で新たな郷土資料館建設計画を提案していきたいと考えています。旧村役場の建物を保存するかという問題はさらに多くの方の意見を伺い慎重に判断したいと考えています。

南部地域に乗合タクシーの実現を！

共産党　重田保明

問：市南部地域住民の交通不便をなくすには、「デマンド交通システム」、いわゆる需要によって動く乗合タクシーの運行が最善の方法と考えます。南部地域は、農地面積が多く人口が少ない特性があり、バスを走らせても、利用者が限られてしまい非効率です。また、利用が少なく、採算が見込めないことにより、民間のバス会社は、路線を廃止しています。行政は利用が少ないからといって交通不便地域をそのままにしていいということではありません。利用者がいる以上、移動手段の確保を保証すべきです。そこで効率的で市民に喜ばれる「デマンド交通システム」乗合タクシーの運行を実施すべきと考えますがいかがでしょうか。

答（市長）：コミバスの運行により公共交通不便地域が解消されると考えます。玄関まで迎えにいく乗合タクシーについては、公共交通不便地域の解消策ではなく地域福祉の制度の中で考える課題と考えます。

禁煙治療の推進を！

公明党　鈴木輝男

問：いまや公共の場での喫煙規制が今日化され、禁煙は世界の潮流になっています。フランスでは、2月から公共の場での禁煙が始まり、アメリカでも、18年から公共施設での喫煙が禁止され保育園やアパートで喫煙が禁止されました。わが国でも15年5月に健康増進法が施行され喫煙防止対策が講じられています。このことから、積極的に禁煙治療について周知することが重要と考えます。

答（市長）：禁煙が今や世界的な潮流となっていること、禁煙治療について大変効果があることについて認識しています。市としても、健康増進法の施行に伴い事務室内での禁煙を実施し受動喫煙の害の排除を進めていますが、全面禁煙には至っていないのが現状です。

答（保健福祉部次長）：医療保険制度の改正で保険適用による禁煙治療ができるようになったため、どの医療機関で治療が可能か、治療費用など必要な情報を積極的にPRしていきます。

あそびっ子クラブ 今後の活用について

海友ク　氏家康太

問：あそびっ子クラブは19年度中に市内全小学校に開設されることになり、今後は、これまで以上に良いものにするという観点で事業を考える必要がありますが、どのように活用し発展させていくのか伺います。

遊びを通じて子どもたちと接するパートナーは、子どもたちにとって身近に感じられ、ひびきあう教育の一翼を担う存在です。パートナーの特技を活かす遊びを導入するなり、特技を持つパートナーの募集なども考える必要があります。パートナーをどうサポートし、どのような資質を求めていくのか伺います。

答（教育長）：あそびっ子クラブ全校開設後は、課題を整理し、学童保育事業と連携して、よりよい姿となるよう検討していきます。

答（生涯学習部次長）：あそびっ子クラブの成否はパートナーにかかっています。パートナーが長く関わり、子どもたちが中学生になっても顔見知りであれば、地域の青少年健全育成につながります。今後も地域でやる気のある適任者を選任するとともに、情報交換会や研修を実施しパートナーの資質向上を図っていきます。

今後の展開に期待、あそびっ子クラブ

団塊世代への取り組みは？

市政ク　外村　昭

問：団塊世代の定年は、高齢者を対象とする市場の拡大や社会保障制度など経済社会面での影響が考えられます。市内でも、毎年約2000人の方が定年を迎えます。退職後は、旅行などでのんびりしたい方が多いと思いますが、その後何か仕事をしたいという気になってくると思います。行政として対策を立てるべきと考えます。また、高齢者の生きがい対策として、就労支援や新規就農希望者に講習会が計画されていますが、特定農地貸付法、市民農園整備促進法に基づき協力すべきと考えますがその対応を伺います。

答（市長）：市独自の施策として、海老名市農業振興プランを策定中です。このプランでは、法律の趣旨を取り入れ、団塊世代の方々の就農支援策を盛り込んだ事業を展開していきます。

答（市民環境部長）：市民農園を希望する方には、段階に応じた講座を受講してもらい、食の安全確保を図っていきます。

就農対策としては、まず農業を知っていただくことを念頭に関係機関と連携し、農家の派遣研修の受け入れあっせんなど就農への支援策を進めます。

花育の普及を！

海友ク　今井和雄

問：都市化が進み緑も減りつつある状況下で、子どもを情緒豊かに育てるには、自然との触れ合いが欠かせないといわれています。子どもが花に興味を持つことで、家庭に花が飾られるなど情緒豊かな家庭づくりにつながると思います。私の農園にも、市内の中学生が10名ほど花の体験学習に来られ、その後、送られてきた感想文には、花作りが大変なこと、花を傷めてしまったときの心の傷みや生命の大切さを知ったこと等、様々な優しい心が書かれていました。そこで、学校教育や行政で「花育」を進め、心優しいえびなっ子を育てたらと考えますがいかがでしょうか。

答（教育長）：小・中学校では、子どもたちの感性を高めるため、学習の一環として、また、ひびきあう教育のふれあいの観点から積極的に植物の栽培を行っています。

こうした営みの中で、子どもたちの豊かな情操面が育ち、子ども同士、また子どもと大人がふれあうことで、よりよい人間関係が構築できると考えています。今後、「花育」という言葉を、学校へ広めていきたいと思っています。